日本の大黒あ、支那の親方どこさ、力だめしに行ったもんだけど。ところがしゃ、親方いねで、かかさまえで、

「うちの旦那は日本一の大黒さまど、一度力だめししたいと思ってだ」

ということで、喜んだかかさましゃ、

「奥の座敷で休んでけろ」

どて、大黒さまどこひで、石の火鉢持ってきて、ほいっと置いだもんだど。そしたばその大黒さま、その火鉢動かそうどしたたて、動かせねど。かがでさえこんたに力強いと、親方などでものは、なんぼ力強いもんだんでが、逃げた方がええということで、大黒さま逃げたもんだど。

そござ、親方帰ってきて、

「日本の大黒さま、力だめしにきてら」

と聞いだば

「俺、力だめししてがったのだ」

と喜んで、奥の座敷さ行ったば、えねもんだどよ。

「こら、逃げだな」

と、ぼったど。支那の親方は、梅の木が嫌いで、日本の大黒さま、梅の木の下さかぐれだど。したども、頭出ていたので、頭さ手かけられだどこで、頭さギズついたので、頭さずきん被っているのだど。

日本の大黒さま。梅の木のおかげで、助かってきたもんだどよ。悪事とか災難のがれるために、梅の木植えるのは、その意味だもんだど。

あどは、とっぴんぱらりのぷう。